

平成 2 6 年 度 同 好 会 事 業 報 告

哲 学 同 好 会 世 話 係 名 三 溝 清 洋 会 長 名 市 村 雅 之

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参 加 人 員
7 月 5 日	講 演 会 「 ふ る さ と 竹 内 塾 」 へ の 参 加 講 師 竹 内 整 一 先 生 (鎌 倉 女 子 大 学 教 授 / 東 京 大 学 名 誉 教 授) テ ー マ 「 次 の 世 代 へ 言 葉 を つ な ぐ 」 — 願 う 、 祈 る 、 信 じ る — 場 所 須 坂 市 本 上 町 勝 善 寺	3 人
7 月 3 0 日	夏 期 講 演 会 及 び 哲 学 を 語 る タ べ 第 一 部 講 師 林 秀 純 先 生 (梅 松 寺 住 職) 林 秀 一 先 生 (梅 松 寺 副 住 職) 講 演 内 容 勤 行 と 曼 荼 羅 を 中 心 と し た 講 話 を し て い た だ い た 。 場 所 梅 松 寺 第 二 部 講 師 業 田 昭 映 先 生 (普 願 寺 副 住 職 / 須 坂 市 教 育 委 員) 講 演 内 容 自 利 利 他 の 精 神 に つ い て の 講 話 を し て い た だ い た 。 場 所 普 願 寺	1 8 人

本年度の哲学同好会は会員二十二名で発足しました。

まず、七月に行われたのが、「ふるさと・竹内塾」でした。東京大学名誉教授で、現在、鎌倉女子大学教授の竹内整一先生の講演会は五年前から続いてきましたが、今回が最終回となりました。「日本の言葉の中に、に、日本人の考え、感覚が反映されている。」という考えのもと、生活の中に一つ一つの行動に対して深い思いが込められているやまと言葉についてお話をいただきました。

夏休みには、毎年恒例の夏期講演会が行われました。今年は三部構成となり、第一部の会場は小布施町の梅松寺でした。まず、副住職の林秀一先生に説明していただきながら勤行をしました。そして、住職の林秀純先生からは曼荼羅を中心とした講話をしていただきました。お経を同好会員全員で唱えることができ、貴重な時間となりました。会場を移動して、第二部では 普願寺で副住職の業田昭映先生にご講演いただきました。

「人のために役立つことが自分の喜びになっていく」という自利利他の精神についてのお話がありました。そして、講演の後の第三部は、お待ちかねの「哲学を語る夕べ（懇親会）」でした。会長である私が第三部だけ都合により参加できませんでしたが、美味しいお肉と生ビールの味は格別であったと参加者からの報告をいただきました。



忙しい毎日であるがゆえに、哲学同好会の活動を通じて、足元を見つめる時間を意識的に作り、精神修養をしていくことの大切さを感じた一年でした。

（会長 市村 雅之）